

広島大学総合博物館20周年記念 広島大学公開講座

7

東広島植物園の意義と役割

—植物園から発信する自然共生への挑戦—

東広島植物園は、教員や学生の研究・教育のために、多様な植物や教材植物を栽培・育成して供給しています。さらには、植物の形態分類、生理、生態学などを学ぶための実習や、栽培技術指導の場として活用されています。近年、身近な自然や里山が失われつつある中、希少な植物を系統的に栽培・繁殖させ、その資源を守っています。採取した植物は標本として集積し保存しています。広島大学総合博物館は、2026年11月に開館20周年を迎えますが、東広島植物園は、博物館のサテライト施設として、これまで植物の展示解説を担当してきました。また、長年にわたり、キャンパスの自然環境において、生物多様性保全の取り組みを進めてきました。

本講座では、東広島植物園における植物の栽培・保全活動と地域社会に向けて行っている普及啓発活動について紹介します。植物園は、学生活動の拠点にもなっており、学生が主体となって取り組む野外活動についても紹介します。さらに、キャンパスを研究フィールドとして進められている湿地環境、コケ植物、森林植生に関する研究を取り上げ、身近な自然環境を継続的に調査することの意義を考えます。これらの活動や研究を通して、生物多様性の損失を食い止め、回復へと転じさせる「ネイチャーポジティブ」や、森林・湿地による炭素の吸収・蓄積を通じた「カーボンニュートラル」、さらにSDGsの達成に大学キャンパスがどのように貢献できるのかを紹介します。

会 場	対 面： 広島大学きてみんさいラボ（広島駅南口 広島JPビルディング2階） オンライン： -
時 間	①9:20～10:00 ②10:00～10:20 ③10:30～11:10 ④11:10～11:50 ⑤12:00～12:40
定 員	対 面： 24 名 オンライン： - 名
対 象	どなたでも
受講料	無料
申込方法	郵送・Web
申込期限	一次申込締切： 10/5（月） ※ 定員に達しなければ 11/11（水）（必着）まで先着順で受付

東広島植物園の活動と役割—これまでの取り組みから

講 師： 東広島植物園 技術主任 塩路 恒生

第1回

11/21（土）

①9:20～10:00

東広島植物園では、大学の教育・研究に用いられる植物の栽培や、貴重な植物の保護・維持管理を行っています。総合博物館のサテライトとして、植物資源を守り、研究や学習に活用する植物園の活動を紹介します。

キャンパスの自然を守り、伝える—学生による野外活動

講師： 総合博物館公認ボランティア
キャンパス・スチューデント・レンジャー 本間 裕晟

第2回

11/21 (土)

②10:00～10:20

学生が主体となり、キャンパス内の動植物調査、森林や水辺の環境整備、外来植物の除去、観察会や展示などに取り組んでいます。その活動について紹介します。

生物多様性を未来へ—湿地環境の保全と研究

講師： 大学院統合生命科学研究科 國井 秀剛

第3回

11/21 (土)

③10:30～11:10

東広島市には、湿地や水辺を利用する多様な生き物が生育・生息しています。湿地環境の調査や管理を通して、生物多様性を保全する取り組みと研究を紹介します。

小さな植物から環境を読み解く—コケ植物の多様性と機能

講師： 大学院統合生命科学研究科 弘松 瑤希

第4回

11/21 (土)

④11:10～11:50

キャンパス内のさまざまな環境に生育するコケ植物の多様性や環境への適応、生態系における役割を明らかにする研究を紹介します。

変わりゆく広島の森—森林植生の調査と研究

講師： 大学院統合生命科学研究科 中村 創

第5回

11/21 (土)

⑤12:00～12:40

広島大学周辺の森林では、樹木の成長や森林遷移、マツ枯れ、管理の違いなどによって、植生が少しずつ変化しています。植物調査や地形・土壌、ドローンなどを用いた研究から、森林の現状と将来について議論します。

講座内容に関する
お問い合わせ先

東広島植物園 担当 塩路 恒生

電話： 082-424-7111

メール： tshioji@hiroshima-u.ac.jp